

2026年5月20日

2025年度

事業報告書

自2025年4月 1日
至2026年3月31日

<本編>

I. 法人の概	1
要	5

II. 事業の概
要

学校法人近畿医療学園
大阪市北区西天満5丁目3番10号

I. 法人の概要

1. 建学の精神

確かな技術と共に社会奉仕の精神を養い、人格共々優秀な人材の育成を目指します。

2. 学校法人の沿革

平成20年（2008）3月	大阪府より学校法人近畿医療学園の認可を受ける
	大阪府より近畿医療専門学校設置の認可を受ける
	大阪府より柔道整復師養成施設の承認を受ける
平成20年（2008）4月	柔道整復学科昼間部、夜間部開設
平成23年（2011）3月	柔道整復学科第1期生卒業
平成23年（2011）3月	大阪府よりはり師・きゅう師養成施設の承認を受ける
平成23年（2011）4月	鍼灸学科昼間部Ⅰ、昼間部Ⅱ開設
平成26年（2014）3月	鍼灸学科第1期生卒業
平成27年（2015）4月	鍼灸学科夜間部開設
平成30年（2018）4月	柔整学科・鍼灸学科夜間部閉鎖
令和3年（2021）4月	柔整学科昼間部スポーツ科学コース開設

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人近畿医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市北区西天満 5丁目10番3号		
設置 する 学校	学校名	課程名	学科名	学部	修業年限	入学定員	1学年の 学級数	備考
	近 畿 医 療 専 門 学 校	医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	60	2	午前
		医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	30	1	午後
		医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	30	1	スポーツ科学 コース
		医療専門課程	鍼灸学科	昼間部	3	30	1	午前
		医療専門課程	鍼灸学科	昼間部	3	30	1	午後

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
近畿医療専門学校 （大阪市北区西天満5丁目3番10号）	698.14 ^{m²}	4172.77 ^{m²}	
		87.81 ^{m²} （臨床実習施設）	

5. 役員の概要

【理事・監事】

(2025年4月1日現在)

役 員	氏 名	役員就任日	寄付行為上の 専任区分	備 考
理事	小林英健	平成 20 年 5 月	第 6 条第 3 号	理事長
理事	小林栄美	令和 7 年 3 月	第 6 条第 1 号	近畿医療専門学校校長
理事	清原伸彦	令和 3 年 4 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	北川勝司	平成 20 年 4 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	田中順	平成 31 年 1 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	池之上慎	平成 31 年 1 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	浜口大介	令和 5 年 1 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
理事	京本永寿	令和 6 年 4 月	第 6 条第 2 号	評議員会において選任
監事	大澤泰嗣	令和 5 年 2 月	第 7 条	理事会で選出し理事長が選任
監事	伊藤勇二	令和 5 年 2 月	第 7 条	理事会で選出し理事長が選任

定員数：理事8名、監事2名

【評議員】

(2025年4月1日現在)

役 員	氏 名	役員就任日	寄付行為上の 専任区分	備 考
評議員	清原伸彦	令和 3 年 4 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	西堀健司	平成 31 年 1 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	上野雅洋	令和 5 年 2 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	比嘉悟	令和 5 年 6 月	第 25 条第 1 号	法人の職員
評議員	宇野耕介	平成 31 年 1 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	京本永寿	平成 31 年 1 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	森下和幸	令和 4 年 4 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	小林栄美	平成 31 年 1 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	小林幸司	令和 5 年 2 月	第 25 条第 2 号	25 歳以上の卒業生
評議員	小林英健	平成 20 年 5 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	北川勝司	平成 20 年 4 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	小林朋子	平成 20 年 4 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	田中順	平成 31 年 1 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	池之上慎	平成 31 年 1 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	浜口大介	令和 5 年 1 月	第 25 条第 3 号	学識経験者
評議員	森本崇志	令和 6 年 4 月	第 25 条第 3 号	学識経験者

定員数17名（1号：5名 2号：5名 3号：7名）

●理事会・評議委員会

評議委員会 2025/5/30（決算）、2026/4/8（予算）

理事会 2025/5/30（決算）、2025/7/18、2026/3/30（予算）

6. 教職員の概要

●専門学校・診療所

（2025年5月1日現在）

区分	専任	兼任	合計
教員	18	25	43
職員	17	0	17
診療所職員	0	2	2
合計	35	27	62

●専門学校・診療所

（2024年5月1日現在）

区分	専任	兼任	合計
教員	20	24	44
職員	14	0	14
診療所職員	0	2	2
合計	34	26	60

7. その他

●主な加盟団体

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会	専門学校	法人本部	学校関係
2	公益社団法人全国柔道整復学校協会	専門学校	法人本部	
3	公益財団法人全日本柔道連盟	専門学校	法人本部	
4	全日本実業柔道連盟	専門学校	法人本部	

Ⅱ．事業の概要

1. 国家試験結果

●鍼灸学科国家試験結果

		受験者数	合格者数	不合格者数	合格率%	全国合格率%
はり師	新卒	48	46	2	95.8	84.9
	既卒	5	2	3	40.0	9.8
	総数	53	48	5	90.5	68.8
きゅう師	新卒	48	46	2	95.8	78.2
	既卒	3	0	3	0	23.3
	総数	51	46	5	90.1	71.7

新卒においては、48名中、2名不合格となった。例年安定した合格率を保っている。毎年行っている実力試験を基にした下位者への個別面談や補講が合格率につながっていると考ええる。

●柔整学科認定実技試験結果

70名受験し70名合格。

●柔整学科国家試験結果

		受験者数	合格者数	不合格者数	合格率%	全国合格率%
柔道整復師	新卒	54	54	0	100	90.3
	既卒	36	9	27	25.0	32.9
	総数	90	63	27	70.0	71.5

本学科においては初の合格率 100%を達成。54名中 54名の合格者を出すことができた。鍼灸学科で結果が出ている方法を柔整学科でも取り入れ、少ない教員数でも一致団結し取り組むことが出来た結果と言える。次年度は、卒業率も視野に入れ、9名の留年生も含め、全員卒業、全員合格を目指す方針である。

2. 退学者・留年者数

●退学者数

	1年	2年	3年	合計
鍼灸学科	4	1	2	7
柔道整復学科	9	3	5	17
合計	13	4	7	24

●留年者数（うち休学者・復学者）

	1年	2年	3年	合計
鍼灸学科	1	0	3	4
柔道整復学科	2(2)	7(1)	10(1)	19(4)
合計	3(2)	7(1)	13(1)	23(4)

昨年度 42名の退学者より、4割以上減の 24名の退学者となった。学力不振による留年等、経済的な理由で退学を決めた学生が 4名いる。また、やむを得ない家庭の事情や病気療養のため退学した者が 6名。卒業試験不合格で留年が決定した 3年生のうち退学者が 4名いるが、留年生として残った学生が 10名いる。1年次から国家試験を意識させ、モチベーションを高く持ち続けるよう工夫し、退学者ゼロを目指して取り組んでいく予定である。

3. 会議

●教職員会議

- ・柔道整復学科会議（12回）・鍼灸学科会議（12回）・広報会議（26回）・実務管理者委員会（12回）
- ・教職員全体会議（3回）

上記の他、毎日、教員室は8時35分より、1階事務室は9時より朝礼を実施し、部署ごとの行動予定や情報共有を行っている。全体としては、毎日12時35分より昼礼を実施し、報告と情報共有の他、理念を唱和し、校長発案のテーマに沿って、毎日1人ずつ全員がスピーチを披露し、教職員全員の教育の場ともなっている。

また教職員全体会議を、定例では年度移行時期、夏期、年末、及び必要に応じて臨時で開催し、建学の精神の確認の他、毎回理事長、学園長や校長の話、数値の共有を通して、学校の現在地と進む方向性を確認している。またそれを踏まえた各部署の分科会等を実施し、各部の目標、行動を立案し、同時に学校全体の一体感を醸成することができたと考える。

4. 年間行事

●新入生宿泊オリエンテーション

2025年度入学者の新入生オリエンテーションを、4月3日(木)～4日(金)の1泊2日で開催した。

4回目の開催となるが、元気に挨拶するなど、毎年効果が出ている。本校の基本理念や挨拶等基本的な学校生活について校長から訓示を行い、また各学科に分かれての勉強方法や目標の話し合い、学科ごと、出身地ごとに分かれてのグループミーティング等を行った。学生同士、また学生と教職員の繋がりが深まり、学生の学習意欲向上と学校全体の前向きな雰囲気づくりに大いに寄与するものとなっている。

●スポーツ大会

5月25日（日）にRAC TAB ドームにて開催し、学生同士や学生・教職員の懇親の場となり大変盛り上がった。

●学園祭

10月5日（日）に開催し、各学科のイベントなどで、学内外の交流を深める為にも良い機会となった。

●同窓会

昨年度5年ぶりに再開した同窓会を、10月11日（土）に開催し、25名の卒業生と家族及び来賓、教職員含め総勢58名の参加となった。卒業生同士、卒業生と教職員との歓談など、卒業生の動向が知れる機会にもなり、盛況であった。

5. 部活動

●柔道部

柔道部は、近畿医療専門学校3つの理念である「社会貢献」「人材育成」「奉仕の精神」を日頃から意識し、16名の部員で活動している。

活動にあたり心がけていることは、勉学を最優先すること。そのため活動は週に2回、約1時間半に限定して練習している。今年度6名の柔道整復学科卒業生全員が国家試験も合格し、鍼灸学科にも在籍している。部活動の成果としては、全国柔道整復学校協会柔道大会では団体男子優勝、女子準優勝の結果を残した。地域貢献の一環として、柔道の講習を兼ねて、出稽古を開催した。柔道部を活かし生徒募集にも繋げるため、SNSやプロモーションビデオも作成し、認知度を高めるための活動も行っている。この活動により2026年度は7名が入学する予定である。

●フィールドトレーナー部

2025年8月より始動し、部員数は9名。週2回学内で練習を行い、学外のマラソン大会やイベント等でトレーナー活動を行っている。実際の現場で活動することにより、学生のモチベーションも向上している。

6. 生徒募集

●入学者数（年度対比）

	期	柔整午前	柔整午後	柔整夜	小計	鍼灸午前	鍼灸午後	鍼灸夜	小計	合計
H20年度	柔1		60	14	74				0	74
H21年度	柔2		60	41	101				0	101
H22年度	柔3		57	32	89				0	89
H23年度	柔4・鍼1		42	40	82	21	22		43	125
H24年度	柔5・鍼2		37	17	54	21	20		41	95
H25年度	柔6・鍼3		59	21	80	13	11		24	104
H26年度	柔7・鍼4		36	10	46	12	9		21	67
H27年度	柔8・鍼5		61	7	68	17	11	16	44	112
H28年度	柔9・鍼6		62	7	69	14	28	9	51	120
H29年度	柔10・鍼7	23	31	13	67	22	23	17	62	129
H30年度	柔11・鍼8	31	21		52	9	8		17	69
H31年度	柔12・鍼9	55	32		87	14	30		44	131
R2年度	柔13・鍼10	58	36		94	16	30		46	140
		柔整午前	柔整午後	スポーツ 科学	小 計	鍼灸午前	鍼灸午後		小 計	合 計
R3年度	柔14・鍼11	39	14	22	75	29	29		58	133
R4年度	柔15・鍼12	53	11	11	75	23	30		53	128
R5年度	柔16・鍼13	55	18	14	87	27	30		57	144
R6年度	柔17・鍼14	34	12	12	58	22	28		50	108
R7年度	柔18・鍼15	41	7	6	54	22	29		51	105
R8年度	柔19・鍼16	45	8	4	57	30	27		57	114

●募集全体

令和8年4月の入学生は、昨年度（令和7年4月入学生）の105名を上回って最終114名となったが、目標の定員充足には至らなかった。

課題を考察すると、柔道整復学科の午後コース・スポーツ科学コースの入学が12名と特に少なく、今後の募集活動としては、高校生を中心にスポーツ科学に注力することが課題として浮上した。如何に当該コースに誘導し入学に導くかがキーポイントとなる。

令和7年度の活動の総括としては、資料請求者数は令和6年度に比べやや減少したものの5,190件。オープンキャンパスは53回（昨年度46回）を開催し、その内10月以降は、学生スタッフ企画で開催したものを16回開催し、初来校を迎える高校1、2年生に対応すべき「ライトな内容で展開」し、高校3年生での再来校に結びつけるべく今年度対策を講じた。

高校3年・社会人の来校者実績は、昨年度と同じく208名で、外部募集89名入学者から歩留り率は42.7%の結果となった。

7. 教育内容の充実

柔道整復師・鍼灸師養成校として、知識・技術・人間力を兼ね備えた医療人の育成を目指し、教育内容の充実に取り組んだ。

教育の質向上を目的として、「授業力強化月間」を実施し、教員勉強会や授業見学を通じて、教員間での学び合いと授業改善意識の向上を図った。また、一方向型の講義だけではなく、学生参加型の授業の導入を推進し、学生の主体性や理解度向上につながる授業づくりを進めた。

さらに、学生アンケートを活用した授業改善サイクルを構築し、学生視点を取り入れた教育改善にも取り組んだ。実技教育についても、臨床現場を意識した指導を強化し、現場対応力向上に努めた。

加えて、退学防止対策についても重点的に取り組み、面談を通じて、学生一人ひとりの状況把握に努めた。学習面だけでなく、生活面・精神面・進路面も含めたサポート体制を強化し、早期の変化や悩みに気づき、迅速に対応できる環境づくりを進めた。また、教職員間での情報共有を密に行うことで、学生支援の質向上と退学リスクの早期把握に努めた。

国家試験対策については、模擬試験や補講、個別フォロー体制を充実させ、早期からの学習支援を実施した。その結果、教員間における授業改善意識の向上、学生参加型授業の増加、学習支援体制の強化、国家試験対策の早期化など、一定の成果が見られた。

また、国家試験合格率向上を学校全体の重要課題と位置づけ、学科横断的な対策を実施した。定期模擬試験の実施に加え、こまめな会議を通じて学生ごとの課題把握を行い、個別面談や学習習慣定着支援、弱点分野に対する補講など、個別対応を強化した。

一方で、学生間の学力差への対応や、低学年段階からの学習習慣形成、個別最適化指導のさらなる強化については、今後の重要課題として継続的に取り組む必要がある。

●職業実践専門課程認定

文部科学省による認定審査制度で「職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する」ことが目的であるため、教育課程編成委員会において外部委員の意見を参考に体系的な編成と見直しを行い、キャリア教育の充実を図るべく、関連分野の企業、関係施設や業界団体との連携を単発的なものから取り入れた。併せて学校関係者評価委員会も設置しており、職業教育に対する外部評価を行うことで、その内容を次年度にフィードバックしている。

また年間を通じて、専門分野の実務研修や指導力向上の教員研修、自己啓発研修や企業等が行う研修に参加することで教育内容を充実することが出来た。

8. 就学支援制度

●高等教育の修学支援制度の対象校

6年目となる制度で、高校卒業後2年以内の入学生対象ではあるが、高校での申込みが殆どで、対象校であるかどうか、かなり募集に影響する。2024年度から要件及び支援区分も改正されたが、確認要件も満たし、引き続き認定を受けることが出来た。認定により、該当学生の給付奨学金及び入学金・授業料が減免の対象となり、世帯収入に応じ区分Ⅰ～Ⅲ、Ⅳ(多子)、多子(減免のみ)の支援を受けることができる。当年度は、1年31名、2年17名、3年17名の合計65名が利用し、国と自治体から年間実績額として、36,608,500円の支援を受けた。

- ① 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における【経常収支差額】が、1ヶ年でもプラス

② 直前の決算の貸借対照表における【運用資産－外部負債】がプラス

③ 直近3年度の収容定員充足率が、50%以上

※①②のいずれか、かつ③を満たせば認定される。

2024年度から多子世帯(3人以上)に対しても支援が拡大されたことにより、在校生にまで拡充し2025年度は前年度に比べ約20名増えた。事務処理が滞ることのないよう、奨学金事務と授業料等減免事務を連動して、学生課にて対応していく。

●内部進学免除制度

柔道整復師と鍼灸師の両資格を取得することで、外傷だけでなく内臓疾患に対してのアプローチにより治療の幅が広がり、より多くの患者の治療に携わることが出来、またスポーツトレーナーとしても選ばれる確率が上がることなどへの理解が広がり、内部進学者が増加した。内部進学の特典として卒業生及び在校生、さらに入学希望者に対し入学金免除に加え授業料等を半額にすることでダブルライセンスを取得し易い環境にあることをアピールしている。

2026年度入学者では、既卒5名、新卒9名、同時入学5名、1年ずらしが9名、2年ずらしが2名の計30名の利用者がいる。中途退学や休学をすることのないよう、両学科同時に学ぶ学力があるか、成績基準を設けている。

●専門実践教育訓練給付金制度

社会人向けの専門実践教育訓練給付制度で、2025年度は鍼灸学科午前コース・午後コースが指定されており、午前コースは2年生6名、3年生5名、午後コースは1年生11名、2年生8名、3年生6名が利用していた。

9. 社会貢献の充実

●地域貢献

コロナの影響以降、社会福祉協議会等の活動は中止したが、附属治療院へは、地域の方に治療に来て頂いている。

また建物内にあるアローズジムでは、大阪初進出のスポーツ科学塾として、地域のたくさんの子供達が身体能力を上げるために通ってきている。